

假名日本紀卷第一



明治九年圖書寮交付

神代上 天地未分と陰陽分ざる時。渾沌なれんや。雞子の
おやと溟津て牙と含み也。其清陽なれんや。薄靡て天に
お祭重く濁るるを乃ハ淹滞て地やおに朽らびて。精
く妙なれんや。あはれと搏つるをく。重くおらゆるが。凝たれ
ハかゝるゆをづし。故天まけ成て。地のちに定る。然して後。
神聖と乃中に生まる。故いそく。開闢く。先。洲壤浮漂へ
ゆを。たるとハな。游魚乃水のうみうけるがごとし。
時に天地の中に一物生まる。状葦牙のうき。もかゝる神

化^ナ化^ナ國常立尊^{クニノトコクニミコト}こまを次^マ。至^マて貴^ミと尊^ミと云^ク、これよりの
れ^ハ下^シに^シな^ク。次^ニ小^ク國狹^ク槌^{ツチ}尊^ミ。次に^ニ豐^{トヨク}斟^{シム}淳^{ムス}尊^ミと云^クて三^ニ神^{カミ}内^ニ
す。乾^{ツギ}道^{ミチ}ひやう^ニな^クす。このゆゑにこれ純^{ツク}男^ヲれ^ルと云^フとな^ル也^{ナリ}。

一^ハ書^シに曰^ク。天地^{ツチノチ}を^シゆる^ルに^ニ一^ニ物^{モノ}虚^{ソノ}中^{ナカ}に^ニな^ル後^ノ也^{ナリ}。か
た^チ言^ハつ^ク。その中^{ナカ}に^ニ木^キの^ノつ^クう^ク。化^ナ生^ル之^ノ神^{カミ}の^ノり。
國常立尊^{クニノトコクニミコト}を^シす。亦^ハ國底立尊^{クニノソコクニミコト}を^シす。次に^ニ國狹^ク槌^{ツチ}
尊^ミ亦^ハ國狹^ク立^{ツチ}尊^ミを^シす。次^ニ小^ク豐^{トヨク}國^{クニ}主^{メシ}尊^ミを^シす。ハ^ハ豐^{トヨク}組^{クミ}野^ノ
尊^ミを^シす。次^ニ伊^イ波^ハ八^{ハチ}豐^{トヨク}香^カ節^{フシ}野^ノ尊^ミを^シす。また^ハ浮^{ウキ}經^フ野^ノ豐^{トヨク}
買^{カヒ}尊^ミを^シす。また^ハ豐^{トヨク}國^{クニ}野^ノ尊^ミを^シす。また^ハ豐^{トヨク}齒^{クシ}野^ノ

尊^ミを^シす。次^ニ亦^ハ葉^ハ木^キ國^{クニ}野^ノ尊^ミを^シす。又^ハ見^ミ野^ノ尊^ミを^シす。

一^ハ書^シに曰^ク。い^ハく^ハ一^ニ國^{クニ}雅^イ地^チ雅^イの^ノら^レた^ト一^ハな^ク浮^{ウキ}
膏^{アヲ}れ^ルく^クに^シて漂^{ウラ}蕩^{ヨウ}る^ルに^シ小^ク國^{クニ}れ^ル中^{ナカ}に^ニ物^{モノ}生^ルり^テ狀^{カタ}
葦^{アシ}牙^カれ^ルぬ^レけ^レ出^イた^ルる^ルに^シて^ハ化^ナ生^ル之^ノ神^{カミ}内^ニ
十^ト可^カ美^メ葦^{アシ}牙^カ彦^{ヒコ}舅^ケ尊^ミ次^ニ國常立尊^{クニノトコクニミコト}次^ニ國狹^ク槌^{ツチ}尊^ミ
一^ハ書^シに曰^ク。天地^{ツチノチ}内^ニの^ノり^テ始^ハて^テ神^{カミ}人^{ヒト}を^シ次^ニ可^カ美^メ
葦^{アシ}牙^カ彦^{ヒコ}舅^ケ尊^ミつ^クに^ニ國底立尊^{クニノソコクニミコト}

一^ハ書^シに曰^ク。天地^{ツチノチ}を^シゆる^ルに^ニ始^ハて^テこ^ノろ^ニに^ニ生^ルり^テ化^ナ
化^ナ神^{カミ}と^シ國常立尊^{クニノトコクニミコト}と^シ曰^ク。次に^ニ國狹^ク槌^{ツチ}尊^ミ又^ハい^ハく^ハ高^{タカ}天^{アメ}原^{ハラ}

に生れし神の名を。天御中主尊とす。次小高皇産
靈尊。次に神皇産靈尊とす。

一書小曰く。天地のまゝなるはれに。たゞは。なほ
海上に浮雲の根の。ふ所あるごとく。そ乃中に。一物
あり。葦牙れ。て泥中に生たるごとく。もかそ
ち人となり。国常立尊とす。

一書に曰く。天地初判に。物あり。葦牙乃らやくに
して。空中にあり。こゝに。架るなり神と。天常立尊と
す。次に。可美葦牙彦舅尊。又物あり。浮膏乃こくく小
して。空の中より生る。是に因て。化神と國常立尊と曰く。

次に神より。泥土煮尊。沙土煮尊。次小神あり。

大戸之道尊。大苦邊尊。大戸摩彦尊。大戸摩姫尊とす。

もつふに神より。面足尊。惶根尊。又ハ。吾屋惶根尊と曰く。亦

ハ。青檀城根尊と曰く。亦ハ。次に神より。伊弉諾尊。伊弉冉尊

一書に曰く。これ二神。青檀城根尊の子あり。

一書小曰く。國常立尊。天鏡尊と生る。又ハ。天鏡尊。天萬

尊と生る。天萬尊。沫蕩尊と生る。沫蕩尊。伊弉諾尊と

生る。せ也。

凡ハ。神乾坤乃道。乃ハ。化は。これハ。此の男

女と。乃ハ。國常立尊より。伊弉諾尊。伊弉冉尊と。これと神

三

世七代とつふもれなり。

一書に曰く。男女耦生は神。まげ埜土煮尊。沙土煮尊。まひ。つまに。角織尊。活織尊。ゆす。ついに。面足尊。惶根尊。まひ。次

小。伊弉諾尊。伊弉冉尊。まひ。

伊弉諾尊。伊弉冉尊。天乃浮橋のうへに立して。こゑにさうらひて曰ハク。底つ下に豈國なりや。このたまひてすなまら。天の瓊矛ともちく。指下して。かゝ探りしかば。こゝに滄溟とえり。それ矛鋒なり。滴瀝は潮。去りて。一鳥ふかれ。これと名にけて。磯馭盧島なり。二よりられ神。こゝにかれ島にうゑくたれまゝして。まゝて。共為夫婦して。洲国と

うす。あとなまほしそす。かろら。磯馭盧島ともて。国の中れ

柱やなして。陽神ハ左より旋り。陰神ハ右より先ぐは。國の

こゝろを巡て。おまゝく一面にけひき。こゝに陰神ゆ

づ唱へて曰く。意哉可美男にけひぬ。陽神よりけびず

て曰く。吾ハも男子なり。理まけおまげ唱ふる。如何

ぞ。婦人のかへりて言さいだつや。事すくに祥なり。うぢも

ちて改旋るべし。こゝに二神のくまて更にめらて遇ひた

まひぬ。是行ハ陽神まげ唱へてのりそく。意哉可美少女に

あひぬ。うまて陰神に問てのりそく。汝が身何の成る所

あれや。對て曰く。吾が身よ一の雌元之處あり。陽神曰ハク。

吾う身もまゝ雄元之處ヲハシメトイフなり。吾う身れ元處ハシメトイフとらして汝う身れ元處ハシメトイフに合せせやかよふやのふ。こゝに陰陽インヨウを合せてミツクテ夫婦フツメの所産コウムと記に至るにおらびて。先淡路洲シマともて胞ユとす。意悦ミヨロヨロヒが所あり。故名はけて淡路洲といふ。もかハち大日本豊秋津嶋オホヤマトトヨアキツシマをうせ。次に伊豫イヨの二名島とす。次に筑紫ツクシの洲とす。次に隱岐洲カクシマと佐渡の洲とす。次にうむ。世人ヨヒトのうむハ雙生フタウマとやあれハ。これふつとてなり。次に越洲コシノシマとす。次に大洲オホシマとす。次小吉備子洲キビコシマとす。生是ナマふとて。始りて大八嶋國オホヤシマクニの號ナに記す。即ち對馬島ツマシマ壹岐島イチキシマにうむ。處々トコロ乃小島コシマハみふ。あれ潮シホの沫アワのうりて。成

まれもれふ。まゝハ水沫ミヅアワのうりて成ナともいふ。

一書ヒトツキ小い。天神伊弉諾尊伊弉冉尊ニギハヤヒニギハヤヒに。かゝりての玉タマとく豊葦原トヨアシハラの千五百秋チイホアキ乃瑞穂之地ミツホノチあり。う浴ユく汝ニのて備ツクらもぞく。このうひて。もかえち天瓊アメノマホコ戈ホコとたまふ。あゝに。二神天上浮橋フキノウキハシにたゝりて。戈ホコとけり。あゝりて。地チと求モトむ。う架カて滄海ソウカイに畫エなして。引ヒキあられらね。まなこちホコの鋒ホコより。垂落シタ之潮シホより。島シマやなれ。名つけて礮馭カサマ盧ロ島シマとす。二神ニカミの嶋シマに。あゝ降クダり。八尋ヤスヒ乃殿ノノと化作カクサマつ。まゝ天柱アマノヒシラとみたつ。陽神陰神ヨウカミインカミに問ひて。のたふハく。汝ニの身ミ。何ナニの成ナとふ處トコロのあれ對タガヒて曰イハハく。吾う身具ミタガヒ成ナて。陰

元ハやつハその一處ハ也。陽神のハ由ルく。吾ハ身ハ亦具成
て。陽元とつハもれ一ハこころ也。吾ハ身ハ陽元ハ所と
せちて。汝ハ身ハ陰元ハ所ハに合セるハと欲スとハあハの玉
ひて即チちハまハに天柱ト巡ルらハまハして約束テの玉ハいハく。
妹ハ左ヨリ巡ルれ。吾ハまハに右ヨリ巡ルらハむ。既ニして分
も巡ルく遇ハたハゆハひぬ。陰神ハげ唱ヘての玉ハいハく。妍哉可
愛少男陽神ハのハに和シ之ハ曰ク。妍哉可愛少女つハひ小夫婦
して。まハの蛭見トうハまハを那ラらハ葦船ニのハせてハまハかちや
むハき。次ニ淡洲トうハむ。うハも亦モ以テ見ル數ニ充ズ。つハれハかハる
むハく。天上トゆラでハ。具ニ其狀トまハをハたハまハふ。こハた

に天神太占トもてト合フ。まハなハち教テのハたゆルく。婦
人ハのこハやハまハ己ハふハげ揚ルるハむ。うハうハ登ルるハに還リ去ル
ぬ。まハかハち時日トト定メて。うハ降ルるハす。故ニ二神ト改メてハぬ
た柱ト巡ルらハまハ。陽神ハ左ヨリ巡ルらハまハ。陰神ハ右ヨリ巡ルらハまハ。既
に遇ハたハまハひぬハ時ハに。陽神ハの唱ヘて曰ハく。妍哉可愛
少女と。陰神ハ後ニ和シて曰ク。妍哉可愛男と。然シて後小宮
とハ同クして。共ニ小住スてハ生兒ト大日本豊秋津洲ト號ス
次小淡路洲トつハ小伊豫ト二名洲ト次小筑紫洲ト次小隱岐ト三
子洲トつハ佐渡洲ト次小越洲トつハ吉備兒洲トれハにハ
して是ト大八洲國トとハつハ

一書に曰く伊弉諾尊伊弉冉尊二神天の霧のなうりに立
しての玉はく吾國と得せこのたふひて乃ち天の瓊矛
と以て指垂て探りて。破馭盧島と云き。其れをち。牙
と抜りけて喜てのゆとく善乎国乃ありけること。
一書よいしく伊弉諾伊弉冉二神高天原にまゝて曰ハ
く。まゝに国有らむやとの玉ひて。即ち天の瓊戈と以て。
破馭盧島と畫成す。

一書よ曰く伊弉諾伊弉冉二神りひりてての玉はく。
物あり。浮膏乃るや。その中に蓋国ありむやとのりひ
て。もなとち天の瓊矛と以て。一は乃嶋とわさりぐりな

十名にけて。破馭盧嶋や。

一書よいしく。陰神まげ唱へて曰く。美哉善少男。これに
陰神言と先だつるを以て。故小祥ありて。さうに又
改見巡る。もかいち。陽神まげ唱へて曰く。美哉善少女
つひに。交合せせとまれ。而もその術とまらば。これに
鶴嶋あり。飛まゝりて。その尾かいらと揺く。二神見を
こして。これに學ひて。もなはち交道とえつ。

一書にいしく。二神夫婦合して。まげ淡路洲淡洲とて。
胞とふ。大日本豊秋津島とうむ。次に。伊豫洲。つぎに。筑
紫洲。次に。隠岐洲と佐渡洲とゆさぶに生じ。次に。越洲つ

に。大洲。つぎ。子洲。

一書にいそく。まげ淡路洲とらむ。次に。大日本豊秋津洲。に。伊豫の二名乃洲。つぎに。隠岐洲。次に佐渡の志。ゆ。次に。筑紫の洲。次に。壹岐の。つぎに。對馬洲。

一書に曰く。礮馭盧島とて胞とて。淡路洲と生。次に。大日本豊秋津洲。次に。伊豫二名洲。つぎに。筑紫洲。つぎに。吉備子洲。つぎに。隠岐洲と佐渡洲や。つぎに。つぎに。越洲。

一書にいそく。淡路洲とて胞とて。大日本豊秋津洲とらむ。つぎに。淡洲。つぎに。伊豫の二名乃洲。つぎに。

隠岐の三子洲次に佐渡洲つぎ小筑紫洲つぎ小吉備子洲つぎに大洲

一書に曰く陰神まげ唱へて曰く妍哉可愛男とて。つぎに。陽神れ手と握てつぎに夫婦とて淡路の洲とらむ。次に。蛭兒

次小海と生む次に川とらむ次に山とらむ次に木祖句句。通馳とらむ次に草祖草野姫とらむ。ハ野槌と名づく。既に。伊弉諾尊伊弉冉尊とてに議してのた。大日本豊秋津洲。つぎに。大八洲国に。山河草木とらむ。何とて天の下。主た。日神と生む。つぎに。共に。日神と生む。つぎに。

此大日靈貴オホヒメノミコごますとす。一書小曰く。天照大神。一書この子光
華ハうるるとくして六合之内ニに照徹テる。故レうるとくレの神
喜ヨロコてあ玉タマハく。吾息多ワカコサハあ玉タマやつるトを。未マかく靈異フミヒヤシる。見ハ
あアす。うべくヒキシ久キウくこれ国クニに留奉トドマるべうトど。木のつやツヤ將
に早ハヤく天アメに送オウて奉ホウて授サツくるに天アメ上の事コトともてをへし。
この時に。天地アメノチあひ去サはるや。いゆイと遠トホつトど。故レ天柱アメノムスビとも
て。天アメ上ノ小コ木キくレ已マ舉アぐ。次に。月神ツキノカミを生ウまはレてハん。一書曰
月夜見尊ツキヨミノミコ。それ光彩ヒカリうレはるレにレ日ヒにレ亞アてレもて日ヒ小コ配ナ
へて治シラをべし。故レもレ天アメ小コ送オウてハまレつレは。次ツギ小コ蛭ヒル見ミと生ウむ。已マ
小三歳コサンサイにあアるレ戸ドで脚タラシおハ立タど。故レうレ後ノチと。天磐楸樟船アメノイノクサフネに載ノ

せて風乃カゼノまレにレ放ナち棄スつ。次ツギ小コ素盞鳴尊スサノヲノミコ。一書小曰く神
鳴ナこの神カミ。勇悍ユウハンくレく。安忍ヤニふるレやあり。まレるレにレ哭ナク泣ナ
ともて行ユクとあアす。故レ国クニの内ウチれ人草ヒトクサとシて。多オホにもレて天折アメノセふ
す。ゆユ青山アヲヤマと變カ枯マにレあア。故レその父イハ母ハハれ二神ニカミ。素盞鳴尊スサノヲノミコに
こやコらラけレのレあアく。汝ニらレがレ道ミチあアく。以モて宇宙ウツタマに君ミコた
はハうウす。まレに根国ネノクニに適イはレるレの玉タマひヒて。つツひヒふフるルひ
れ。

一書に曰く。伊弉諾尊イハノリノミコ曰イハく。吾御宙ワタシノミタマへニ珍子ウツコと生ウむと
欲ホシて乃ノ以モて左ヒダリの手に白銅鏡ハクドウキョウと持トリ玉タマふ時トキ。則スな化生ナリウマるル神カミを
も。是コトと大日靈尊オホヒメノミコと謂イハふ。右ミダリの手に白銅鏡ハクドウキョウと持トリ玉タマふ時トキ。化

出る神より。是と月弓尊と謂と。又首と廻て顧眄之間に
 則化神と也。是と素盞烏尊と謂と。即大日靈尊及月弓尊
 ハ。並に是質性明麗し故天地と照臨しむ素盞烏尊ハ是
 性残ひ害ふことと好む。故下して根国と治ふむ。
 一書ふつをく。日月をでに生れたまひぬ。次に蛭児と
 む。これ児年三歳に満めをこえ。脚な不立ず。もて兒伊弉
 諾伊弉册尊。柱とろり多ひしに。陰神より喜ぶ言と
 けぐ。をでに陰陽れこととに達へて。これゆゑに。今蛭
 児と生む。次ハ素盞鳴尊と生む。乃神性さか
 かくして。常に哭悲こととこのむ。国民多に死あり。青山

とつ山におす。故その父母勅して曰く。たとい汝こ
 の国と治ハ。かあす。残傷所にかきせとに。故汝
 ハ以て。さハ免て遠く根国と馭をせし。次鳥磐椽樟船と
 うを。をふハち。これ船ともて。蛭児を載せて。流に順て放
 ち棄つ。次に火神軻遇突智とうむ。これに伊弉丹尊軻遇
 突智がた先に。焦もて終まらぬ。これ終まらぬをこれ間
 に。卧なうと土神埴山姫にらび。水神罔象女とうむ。もふ
 もち。軻遇突智埴山姫母らひて。稚産靈とうむ。この神の
 頭乃うへに。蠶と桑やるを。臍乃中に。五穀なまら
 一書にいそく。伊弉丹尊火産靈とうむ。これに。子の為に

焦もて神退まぬゆゑ神避せり。その神をまきま
こするに。まかハチ。水神罔象女および。土神埴山姫
とうむ。又天吉葛とうむ。

一書小曰く。伊弉冉尊。火神軻遇突智と生むこまねに
小。悶熱懊惱。吐もくも神をふれ。名と金山彦とい
ふ。次に。小便まね。神をなほ。罔象女こりふ。つきに。大便
名と埴山媛こりふ。

一書にいそく。伊弉冉尊。火神と生むに。灼もく神退
まぬ。故紀伊國の熊野の有馬乃村小葬まねる。土俗こ
れ神乃魂ともつるにハ。花のこねにハ。まき花と以て祭

る。ゆゑ鼓吹幡旗ともて歌舞てまねる。

一書に曰く。伊弉諾尊。伊弉冉尊をこもに。大八洲国と
見ゆ。然してのち。伊弉諾尊のたふハく。我う生るる国。
た。朝霧のこあて。熏り満はらぬこの多ひて。とふ
ち。吹撥ふ氣神をぬれ。號と級長戸邊命を以。まきハ。級
長津彦命をまね。これ風神を。亦飢と記うたる見と。
倉稻魂命こまをす。又海神等とうむ。少童命と名つく。山
の神たりと山祇となに。水門乃神等と速秋津日子命
こ號く。木神うらと句句迺馳と名に。土神と埴安神こ
名く。然て後にこまき。萬れ物とうみたま。火神か

つちれ生るゝに至りて。そ乃母伊弉丹尊。焦れて神より
まゝぬ。され小伊弉諾尊。恨ての玉こく。たゞこ乃一見と
以て。我の愛るゝに妹のこゝをよ替はるうれ。このうひ
て。まのらら。頭邊に匍匐脚邊ふるゝをひて。哭泣かなし
美たまふ。それ涙おちて神やふれ。ふをすかろら。畝丘乃
樹下にも次神なり。啼澤女命こふづく。けひよ帯せれ十
握劔とぬさて。軻遇突智とをまて。三段にふす。これ各神
こなふ。まゝ劔の又より垂血こを天安河邊よりれ。五百
箇磐石となれ。まふらら。これ經津主神のこおやなり。又
劔の鐔よりきたる。血激越て神こふ。号けて甕速日

神とまをす。次小彥速日神。それ甕速日神ハ。あれ武甕槌
神れこおやなり。また甕速日命といふつらに。もゝ劔の
うにまをさる。たれ血こを以て神となり。名つきく磐裂
神とつふ。つれ小根裂神。つれに磐筒男命一に磐筒男命
によび磐筒女命こつふ。まゝつらふのたうみよりまを
さる血こをきて神こふる。名つけて閻竈とつふ。次に閻
山祇つさに。閻罔象志つてのち。伊弉諾尊伊弉丹尊と
にひて。黄泉に入。己ゆして。及てらこに語はるに。伊弉
丹尊のたふはく。吾が夫君尊何ぞにこく來。ゆいつる。吾
をでに泉つ竈ぐひ一つ。然もこを吾まは小寢息まを。請

ふ勿視ましと。伊弉諾尊まじ玉まびして、ひそくに湯津
 爪櫛とらせて。それ雄柱と牽折て、以て東炬こして。見
 うバ。まふら。膿沸ふ虫たうれ也。今世人夜ひく火こ
 ぼまこやと忌。又夜まげ櫛とひむ。うまそ乃縁なり。これ
 に。伊弉諾尊大に驚てのうまハく。吾意まず。いな凶目汗
 穢国にまふら。この玉ひて。まふら。急ま走かへれ時
 に伊弉冊尊。うらみて曰く。何を要言と用ひまら
 て。今まれ小耻辱ませまら。この玉ひて。まふら。泉津醜
 女八人ままら。一云泉津狭女追て留まらる。故伊弉諾
 尊。劔をぬきてまらへ手ま揮つ。以てまぐ。まらて黒ま

髪と投げまら。これまら。蒲陶まら。醜女まて取ま
 まら。まみまら。則ま追ま。伊弉諾尊。ゆま湯津爪櫛
 まら。まら。これまら。笥ま化ま。醜女まら。以て拔ま
 まら。まみまら。則またまら。後にまら。伊弉冊尊。
 まら。まら。来追ま。これ時に。伊弉諾尊。よまつ平坂
 に。到まら。ゆま。一云く。伊弉諾尊。これまら。大樹にま
 うひて。ゆま。これまら。巨川とまら。泉津日狭
 女。これ水と渡らまら。まら。問ま。伊弉諾尊。まら。泉津平
 坂に。いたまら。ゆま。故まら。千人所引磐石とまら。て。
 それ坂路とまら。まら。伊弉冊尊とまら。まら。立まら。

ついに絶妻之誓を建る。らに伊弉丹尊のたふえく。愛
 らに吾が夫君のこしや。如此しう。吾まけに。汝う
 所治國の民。日小千頭諡殺さる。伊弉諾尊まかそら。報て
 のさふはく。愛うに吾う妹乃こあ。如此し玉う。
 吾いまふらゆに。ひと日小千五百頭を産し。是覺因
 てのたまえく。あれより莫過そこの玉ひて。まかそらと
 杖と投めふ。うら岐神こりふ。又その帯と投たまふ。
 あれと長道磐神こりふ。又その衣をちがふ。こをと煩
 神やりふ。又杖杖禪と投めふ。これと開嚙神こりふ。ま
 その履とふ。これと千敷神こりふ。そのよもつ平坂に

たきてあり。或ハ所謂泉津平坂とハ。まゝ別に所あつに
 あらず。但死にたむびて。氣絶るあひだ。まをりふ。所
 塞磐石とりふハ。これ泉門に塞がます。大神とりふ亦
 の名ハ。道返大神伊弉諾尊。まぐに還て。まねハち追て
 悔て曰しく。吾さきに。いふ凶自汚穢に。こころにいたる。
 故まけに。吾が身れ濁穢もれを。除去むくのたふひて。則
 往て。筑紫の日向乃小戸の橋之檉原に。つゝまたまひて。
 袂うひう。ついに身れ汚れもの。盥滌むとて。
 て。まかハち言あげて曰ハく。上瀬をこれまか。ま疾
 下瀬ハこもれ。弱し。とれうひて。便ち中瀬に濯

たまふ。因てもく生る神と號きて。八十枉津日神とまを
 也。次に。その枉まると矯させこして。生る神と号けて。神
 直日神とゆとす。次小大直日神。まゝ海底にまづみ濯ぐ。
 以てうらる神と號づけて。底津少童命とまをす。つぎに。
 底筒男命。又潮乃中にかづき濯ぐ。うらむてもて生る神と。
 表津少童命とまをす。つぎに。中筒男命。まゝ潮乃うへに
 浮まゝぐ。うらむて以てるも生る神と。名はるて。表津少童命
 と曰も次に。表筒男命。まゝて九神も次。その底筒男命。中
 筒男命。表筒男命ハ。これをしもれらち住吉大神。底津少
 童命。中津少童命。表津少童命。こも阿曇連等が。いつに祭

は神あり。まゝして後。左の眼と洗ひらふ。因てもて生る
 神と。号つけて。天照大神とまをす。まゝ右の眼とらふ。ひ
 らふ。うらむてもて生る神と。號つきま。月讀尊やゆと也。又
 鼻とあゝひらふ。因てもく生る神と。名はるて。素戔嗚尊
 とまをす。まゝて三神をてにして伊弉諾尊。三子に勅よ
 ころしてのさるはく。天照大神ハ。もて高天原と治まべし。
 月讀尊ハ。もて滄海原の潮の八百重とまゝらひへし。素戔
 嗚尊ハ。以て天下と治まへし。このまゝ素戔嗚尊。年まを
 に長たす。まゝハ握鬚髯にひらふ。然もやも。天下と治ら
 るべし。常にもて啼つらち。悲恨伊弉諾尊らひてのさ

何れも。汝何のゆゑか。常に如此なく。對てまをさく。吾
母のこゝろをの根國に從ふ覺こにもよ。たゞ泣のこゝろ
とくまよ。伊弉諾尊。悉て曰ハク。情の任に行ねこのま
て。まれらる逐やまし。

一書に曰く。伊弉諾尊。劍とぬはく。かぐはち以斬て。三段
にふす。それ一段ハこれ雷神也為る。一段ハこれ大山祇
神也。一段ハ此を高靈と為ふ又曰く。軻遇突智と斬
るらば。その血激越て。天八十河中に在る。五百箇磐石
に染るらりて神こふ。名にけて磐裂神也。つぎ小
根裂神の兒。磐筒男神。次に磐筒女神。此兒。經津主神。

一書に曰く。伊弉諾尊。軻遇突智命とまをて。五段小為
也。こを各五れ山祇也。一ハ則首大山祇也。二ハ
まふとち身中。中山祇となふ。三ハまふとち手。麓山祇也
か。四ハまふとち腰。正勝山祇となる。五ハまふとち足。
離山祇となる。この時に。斬る血を。ぎて石礫樹草にそ
まれ。これ草木砂石乃。木の根のわら火をふく。まをて。乃と
こなり。

一書に曰く。伊弉諾尊。それ妹と見まを。まをこに。がして。ま
なもら。殯斂の處につく。まをこに。これ時。伊弉冉尊。か
生平。まをの如くにして。出迎ひて共に語る。まをこに。

て伊弉諾尊に仰せ玉て謂はく。吾が夫君乃みくや。請ふ
吾と勿視ゆしとこの言訖て忽然に見えず。されば
聞し。伊弉諾尊すむらち。一片之火とほして見ざるは
とき。伊弉丹尊。脹満太高。うへに八色乃雷あり。伊弉
諾尊。おくろれて走つて去る。これ時に。雷等ふ不起て
木ひきよれ。されば道乃邊に大なる桃の木あり。故伊
弉諾尊。それ樹下よかく待て。因てその實と採てもて雷
に擲し。うは。いろづらどをいふ。志をときぬ。うは。桃を以
て鬼とふせく。うをれもこな祭。されに。伊弉諾尊。すか
ち。其杖と投うらてのる。万はく。されり。以還雷不敢来

ことを岐の神とつふ。この本の號とハ来名戸祖神と云。
八雷は首にあれとハ大雷とつふ。胸にあれとハ。火雷
とつふ。腹にいろとど。土雷とつふ。背に在とハ。推雷とハ
ふ。尻にあれとハ。黒雷とつふ。手に在とハ。山雷とつふ。足
のうへにあれとハ。野雷とつふ。陰乃うへにあれとハ。裂
雷とつふ

一書にいとく。伊弉諾尊。木ひて伊弉丹尊のまに所に
たり。まして。まかち語てのる。ゆとく。汝と悲とけし
がゆゑに来るや。答ての玉はく。族吾と勿視ましと。伊弉
諾尊。従ひくも。次して。なかりとをかす。故伊弉丹尊。くら

うみて曰く。汝を以てに我情をいつ。我も汝をうら
と見る。これに。伊弉諾尊も、慙うらうりてまほに出
へておぼにす。これ小直に黙さず歸りて、盟之曰ハ
く。族ももちた。又のふりしく。族もかど。まかちり所唾
之神と號つて。速玉之男とつ。次小掃之神と泉津事
解之男となづく。まべて二神まひ。それ妹とらまつ平坂
に相あうまふに。伊弉諾尊のふりしく。始め族を為に悲
みかよび。思哀うれいせハ。これより怯るあり。これよ
泉守道者白いてまさとさく。言ふことわり。曰しく。吾汝を
まてよ国とうみて。奈何とらうに生えんとと求めむ

や。吾もなまらゆきに。これ國にうらまりて。共に去不可
とのうらうら。此時に。菊理媛神。又白く。あり。伊弉
諾尊聞しうて。善うひて。まれら散去た。親泉國
と見た。これを母祥ふ。故と乃穢惡ものと濯除と
む。これかして。まら往て粟の門より。速吸名門を
こ。こなるす。まら。これ二門潮とくに太急。故橋の
小門にかへ。まら。拂い濯に。これよ水に入て。磐
土命と吹生を。水と出てハ。大直日神とふら。まら。入
て。底土命とふら。か。出て大綾津日神と吹生を。又入て
赤土命とふら。生す。出て大地海原乃まら。くの神ならと

ふにみ

一書に曰く。伊弉諾尊イサノノミコ三子トヨミ小勅任トヨミして曰く。天照大神ハもて高天之原を御ミちべし。月夜見尊ハもて日に配タテマツべて。天事アマノコトと知すへし。素戔嗚尊ハもて滄海ソラウミ之原ハラとまらふべし。もくふして天照大神天上アマノにまらふて。曰く。葦原の中つ國ウケモノに保食神ウケモノありときく。宜く汝月夜見尊ツキヨミゆきて見よ。月夜見尊ツキヨミ勅ミコトとうけて降ミりて。すでに保食神乃もに到ミりてふ。保食神ウケモノをみらり。首カビをたぐりて。國クニに嚮ムカひし。うハ。則スな口より飯イ出イづ。又海原ウミハラにむらひし。うハ。鰭ハタ廣ヒロ鰭ヒ狭サマもく口より飯イいづ。又山ヤマ小コむらひし。うハ。則スな毛ケ鹿カ毛モ柔ニ亦ニ

口より出づ。その品物モノくくく備へて百机ヒャクキに貯たくわへて饗ウケたてまつる。これに。月夜見尊ツキヨミへし。口にもほりて。曰く。穢ケガレしに。恥ハにかに。な。寧ニ口より吐ハクする物ともて。あへて我に養カふへけびや。このふしてをみらち。劔ツルギと抜てうら殺ころしつ。然しかしてのちかへし。おやまをみ。具ツグさにとの事コトと言ワひし。時に。天照大神怒イカリまをこし甚こくして。曰ワハく。汝ハこを惡アヒキ神カミふ。相見アヒミト。やのさまひて。もかハち月夜見尊ツキヨミ。一日一夜隔かて。もあきて住すたふ。この後に天照大神アマテラス。もく。天熊人アマクミヒトと遣つして往ゆて見せし。この時小保食神コウケモノ實マコト小コむらひ死しる。たぐりその神カミハ頂タテに。牛馬

化ちり。願上粟生とて。眉のうへに蚕をまゝ。眼のふりに
稗りれ。腹の中に稲ふとて。陰に麥にらび大豆小豆な
れ。天のらぬ人。悉く取もちゆさく奉進る。とに天照
大神。喜びてのさ下ハク。この物ハまれら。顯見蒼生ハ
食て活るものなりこのまひて。まふら粟稗麥豆と
もて。陸田種子と。稲と。水田種子と。又らて天
邑君とまふむ。まふらその稲種と。とて。とて天狭
田からび長田に殖う。それ秋乃無穂ハ握ふと。甚
うろよ。ゆら口乃ららに蚕と含みて。すかハち絲と
抽くとえさ。これららとて。養蠶の道り。

あに素戔嗚尊請てまをさく。吾今教とうけたら。とて。根國ふまう祭ふ。故去ら。高天原にまうです。好乃みら。相見え。とて。後に永退ふむ。とに。まをす。許とやのた。と。天小昇。と。伊弉諾尊。神功をて。小畢。と。靈運當遷。と。として。幽宮と淡路乃洲に構。寂然。と。伊弉諾尊。功をて。に。ぬ。徳。と。大あり。と。に。天にのぼり。と。報命。と。日之少宮。と。まみ。と。ぬ。始。素戔嗚尊。天にの。と。神性雄健。と。然ら。と。

天照大神もやうにその神暴悪にとちろしりて來
詣之状ときあしりすに至りてもあしり勃然に驚たし
てのゆゑとく。吾が弟乃みらるる乃未るこ。豈善意ともて
せや。ねまよにまよに國と奪むむこをれ志りてう。夫
父母乃もぞに諸の子。うち小こやう坊多ひて。各その境と
たやう。如何でゆくべき國と棄れに。りてうの處
と窺窺や。この多ひて。をれもら髪と結て。髻にかし。裳と縛
て袴よま。もあしり八坂瓊之五百箇御統と。それ髻髪に
よひ腕よまひ。もさ背に千箭の鞆と。五百箭れ鞆とを負
ひ。臂に稜威の高鞆と。引らびと。うりたて。劔柄と。こ

握に。堅庭と。うみて股に。わに。ねや。沫雪のあしくもて。楚
散ら。稜威之雄詰。あたり。比。稜威之噴讓と。ねあして。た
だに詰て。問たまひ。き。素戔嗚尊對てのゆとく。吾は。あ
えり。黒心か。た。父母れみらる。もて。嚴勅。す永
に根國に。まか。か。せ。す。も。姉乃。え。こ。相見え。む。は。
吾へ。う。ふ。を。よく。敢て。ゆ。う。む。を。以て。雲霧と。跋渉に。
遠より。來つ。ね。せ。る。阿姉の。み。ら。る。か。へ。て。い。う。に。う。を
む。こ。つ。ふ。こ。と。時に。天照大神。ま。さ。ら。ひ。て。曰。と。く。若。然。ら
は。ま。ま。に。何。と。以て。爾が。赤心を。明。さ。せ。う。う。へ。て。の。う。は。く。
請ふ。姉れ。こ。と。や。ら。も。に。誓。は。せ。誓。約。乃。中。に。必。ま。ま。に。子

生むべし。も一吾う免了也。これ女あり。は。もかち濁心ら
に。おかせ。も一これ男なり。は。すかち清心あり。おかせ
せ。こゝに天照大神。もなち素戔嗚尊乃。十握劔と索と。
うち折て三段よか。天の真名井に濯ぶ。酷然咀嚼て。吹棄
る。氣噴の狭霧に。生まれ。神と。田心姫と。つづ。つづに湍津
姫。は。に市杵鳴姫と。て三女と。次。もて。に。て素戔嗚尊
天照大神の髻髪か。り腕に。も。せ。る。八坂瓊の五百箇の
御統と。ら。ひ。りの天の真名井に。ふ。り。も。ぎ。は。が。み。に。の。こ
て。吹。う。け。る。氣。噴。乃。狭。霧。に。う。ゆ。く。神。と。名。に。け。て。正。裁。吾
勝勝速日天忍穗耳尊曰次に天穗日命。こを出雲臣土師連等祖也次よ

天津彦根命代直等祖也つに活津彦根命つに
熊野櫛樟日命。も。て。五男と。す。この。に。天照大神勅
ての玉はく。その物種と原ぬれば。も。な。は。ち。八坂瓊の五百
箇に御統ハ。こ。も。口。の。物。な。也。故。その。五。ち。ら。れ。男。神。ハ。悉
く。こ。れ。を。見。あり。この。ゆ。ひ。て。も。か。ち。取。て。子。養。ふ。又
勅。て。の。た。り。は。く。そ。れ。十。握。乃。劔。ハ。こ。れ。素。戔。嗚。尊。乃。物。か
也。故。こ。れ。三。ち。ら。乃。女。神。ハ。こ。と。く。く。に。こ。れ。爾。う。見。あり。
この。ゆ。ひ。て。も。か。ち。素。戔。嗚。尊。に。授。け。た。ま。ふ。こ。は。も。れ。ハ
ち。筑紫の胸肩の君ら。ハ。に。祭。る。神。ら。の。り
一書に。い。こ。く。日。神。も。也。り。也。素。戔。嗚。尊。の。武。健。く。て。物

命をたて五々ら乃男神す。故素戔嗚尊。もてに勝志
る。とえつ。うに日神まさ。に素戔嗚尊の。ゆらに悪
に。らふき。と知。りて。をふ。ち日神の生れ
ゆせる。三々。られ女神もて。筑紫國。小。降。ま。さ
く。えて。因て。教ての。ら。はく。汝。三。々。乃神。より
く道の中に。降。居。ま。して。天孫。と。助け。まつ。日。天孫。乃。た
る。に。祭。れ。よ。

一書よ。い。そ。く。素戔嗚尊。天に。昇。ま。さ。む。と。す。ら。ら。に
ひと。日。の神。乃。日。号。ハ。羽。明。玉。この神。む。ら。へ。奉。日。て。瑞。の
八坂瓊乃曲玉。と。進。つ。る。故。素戔嗚尊。と。瓊。玉。と。持。て。天

上。小。到。づ。この。ら。に。天照大神。弟。乃。み。ら。や。の。悪。心。ら
ら。む。と。疑。ひ。た。ら。ひ。る。兵。と。に。て。詰。問。ら。ふ。素戔嗚
尊。こ。へ。て。の。玉。は。く。吾。ま。う。未。所。以。ハ。ゆ。ら。に。姪。れ
み。あ。や。と。相。も。見。え。む。と。なり。又。珍。寶。た。れ。瑞。の。八坂瓊の
曲玉。と。た。て。ま。つ。ら。む。や。に。よ。の。に。敢。て。別。意。ら。る。に。有
ら。ば。ら。に。天照大神。又。と。ひ。て。曰。は。く。汝。が。言。う。や。虚。實
と。な。よ。と。以。て。う。驗。や。も。覚。對。て。の。う。ら。は。く。請。ふ。吾。姪。の
美。あ。や。と。と。に。誓。約。た。て。む。う。け。ひ。乃。間。に。女。と。生。さ。ば。
黒。心。あ。ら。と。に。ほ。せ。男。は。さ。ば。赤。心。あ。ら。や。け。ほ。せ。あ。ら
ら。天。の。ま。か。井。三。処。と。堀。ら。く。ら。ひ。共。に。む。ら。ひ。て。た。つ。

このころに天照大神。素戔嗚尊に「ついで」とて曰く。吾が
帯を以て剣とて。今また汝に奉らむ。汝はいづれに持
たへ八坂瓊乃曲玉とて。吾にくれよ。如此約束て。こも小
前ひ換てこもたまふ。とてにして天照大神。をれら八
坂瓊の曲玉とて。天真名井に浮寄て。瓊端とくひ断
て。吹うける氣噴の中ミナカ化る神と。市杵嶋姫命と名づく。
吹うける遠瀛オキツミヤにも神あり。又瓊の中とくひたうて。吹う
ける氣噴のこなるに生か神と。田心姫命と名づく。これ
ハ中瀛オカツミヤにも神あり。また瓊の尾とくひたうて。吹うつ
るへぶさの中に化る神と。湍津姫命と号づく。こもハ海

濱にも神あり。とて三つらの女神もつらうに素
戔嗚尊持るつれごととて。天真名井にうけ寄せて。劍の
末とくひたうて。吹うける氣噴の中に化生る神と。天
穗日命と名づく。つぎに正哉吾勝勝速日天。忍骨尊つれ
に天津彦根命つぎ小活津彦根命。次小熊野櫛樟日命と
へて五つらに男神またにこころうら
一書曰く。日神素戔嗚尊と。天安河原とる。つらひ
むらひてまかろら立して誓約ての。こもこく汝も一軒
賊之心。つらぬもれ。つら汝が生ら。女子か。つら男な
ら。せも一男と。うらつら。つら吾もて子。つらて天の。つらと治

一七竈。うゝに日神まげその十握の劔と食し。生まひ子
瀛津島姫命。亦の名ハ市杵島姫命。まゝ九握の劔と食し
て。つぎまゝと見満津姫のこゝを。まゝ八握の劔と食して
あれまゝ子見。田霧姫命をてにして。素戔嗚尊。その左に髻
に纏ぢゆ。五百箇統之瓊と。左手に掌中小著て。まゝうら
男オスラとうとまゝ。まゝうら稱してのこゝを。正哉吾勝ぬ。
故よりく名て。勝速日天忍穗耳尊や曰と。又右の髻の瓊
右の手の掌中にたゝて。天穗日命とうむ。まゝ頭カビにうな
げる瓊とつゝみて。左の臂ウデれなうとたゝく。天津彦根命
とうむ。まゝ右の臂の中より。活津彦根命と生と。まゝ左

乃足乃中より燻乃まやびの命とふと。ゆゑ右の足乃中
より熊野忍踏命とふと。まゝれ名ハ熊野忍隅命。其素戔
嗚尊の生たるへる見ハ。こゝを市に男あり。故日神まゝ
に。素戔嗚尊のまやうと赤心アカココロあまくとあはしと。まゝと
ちとれ六くうら乃ひこ神と取てもて。日神乃子とふし
て天の原と治せしむ。まゝとち日神乃生をませぬ三と
しられ女神メカミともてあしうの中つ国乃宇佐島ウサシマにうら
くだと飯イヒうむ。今海の北の道乃あつとまゝ號つけて
道主貴ミチノヌキとまゝとれ。し筑紫ツクシの水沼君ミヅノキミらう。つたきまづつ
神あり。

こののりに。素戔鳴尊の為行いとあらざれば。何とすれば
天照大神。天の狭田長田ともて御田ごしりまらば。素戔
鳴尊。春はまれら重播種子。まゝその畔とまらち。秋はま
かもら天斑駒とこなら。田の中に伏し覺まゝ天照大神大
嘗さるゝゆひ時とこて。まかもらひそくに新嘗のまやに。
けがしも。まゝ天照大神乃。まゝに神衣と織つゝ。齊服殿小
備し。まゝと。まれら天斑駒剥にらばて。殿のいらむと穿
ちて。投げ納る。これに小。天照大神。驚動たまひて。扱とも
て身とつゝ。ゆい覺。られ小由。まゝて。發愠まゝて。まかもら天
石窟に磐戸とこゝて。こゝに居ほす。故六合のうち。常闇と

して晝夜れ相代るまら。まゝに八十萬神なら天
安河原と神會つゝ。ひてそのいのれ。まゝと。ゆとまら
故思兼神。まゝと。謀と遠くまら。つゝ。ひに常世の長鳴鳥
と。あつて。たがひと長鳴せし。まゝと。手力雄神ともて。磐
戸の側に。かくしたる。中臣連のまら。つゝ。天児屋命忌
部の遠つ。おや太玉命と天香山之五百箇真坂樹と。まら
に。まら。て上枝よ。ハ八坂瓊之五百箇御統と。まら。のうけ中枝
に。ハ八咫鏡と。まら。のうけ。真經津鏡。下枝よ。ハ青和幣。白和
幣と。まら。のうけ。まら。に祈禱。まら。また。猿女君のまら。つ
おや天鈿女命。まら。のうけ。手に茅纏のまら。のうけ。ち天石窟戸

前にたぐして。たくみに俳優ワキとす。まゝ天香山の真坂樹
とつうにかし。蘿らをもて手テ繼スになし。志こころうして火ヒ處トコロ焼ヤクうも
かせぬこと。治ちかし。顯カ神明カミ之ノ憑ヨリ談トと。このれに天照大
神カミヤマト聞キし。えしてたをほさく。吾われこれおろ石イシ窟ヤに閉トり。た
よにまきに豊トヨあ。原ハラの中ナカに國クニハ。うろむ長チカ夜ヤゆらむ。
いかに天アメ鈿ニ女メ命ノミコト。かくろむに於おけり。ひてまかハ
ち御手ミテともちく磐イハ戸トと。細ホソりにあけて見ミそなむ。されに
手力雄テカラヲ神カミす。ふら天照大神アメノミコトの手テとた。戸ドよりて。引ヒキ出イダした
てまはる。あに中臣ナカノミコト神カミ忌部イムベ神カミも。ちち端出ハシダ之ノ繩ヒモとひさ
つし。まふら請コラしてまをさく。まふな。還カヘ幸リハ。まふしと。

然してのち。もろく乃神ノカミたち。罪過ツミと素戔鳴尊スサノヲノミコトによせて。た
りすれに。千座チザ置戸オキドともてし。つひにせえらる。髪カミまぐぬ
かしむる。小コ至シりて。もてその罪ツミと贖シガナふ。まゝ曰く。その手足
乃爪ノツメと拔ヒキて。らとと贖シガナふ。まてに。つひに神カミをひり
ひき。

一書ヒトツキよ曰く。この後に稚日女尊ワカヒメノミコト。齊服殿イヒツクミノミヤにまゝく。神カミの
御服ミツクとた。素戔鳴尊スサノヲノミコトみとふら。て。まふら。斑馬フクダ
をさうら。殿ミヤのうちに投ナげ入イる。稚日女尊ワカヒメノミコトも
なまら。驚オドロに。機オリより。持モる。授カともて體ミと傷シガ
しりて。神退カミサリま。ぬ。故ユヘ天照大神アメノミコト。素戔鳴尊スサノヲノミコトにかたりての

たふてく。汝猶きふき心あり。汝に相見とくのうひて。
まふいち天石塞にソリまゝて。磐戸をう一つ。うに天
下ごこをこふして。又晝夜の口うせなり。故八十萬神た
ちと。天高市と神つとへにれごへて。問む。これと高皇
産靈の息思兼神とつ。者らり。思慮のさうをうり。それ
こち思てまとして曰さく。よろしく彼の神れ象とあり
こく造てく。招たてまつらむ。故まふら。石凝姥とめて
治工となし。天香山の金と採てもて。日矛とれくらしむ。
まき真名鹿之皮と。全剥よる。くもて天羽輪よれくる。
これとらして造て奉つ神ハ。こまをふら。紀伊国よ向

し。日前の神あり。

一書に曰く。日神のみらや。天垣田とめて。御田やうま
とれか。素戔鳴尊。春ハまれら。渠う見。畔とてかち。海
秋ハ穀もをよ成めれとさ。ひささす。すよ絡縄とら
てと。まき日神織殿よまきまのらふ。まふら斑駒と
生るに母して。そ乃殿のうらにるげい。はもて。この諸
ごと。盡くにこれあらふ。然ととも。日神恩親とつ
ひのまき意とらして。愠うす。恨うま。うま平うか
る心と以て容う。日神大嘗聞しうをとれ。至はよ
よびて。素戔鳴尊。まふら新宮乃御席のまきに。ひとら

にこつうく送糞を。日神知しえうべして。たゞちに席の
うへに坐たまふ。これより祭て日神體こぞして不平た
まふ。故以ていりまらして。それより天石窟にまゝくして。
その磐戸とすいぬ。それより諸神より。うりてまかより。
鏡作部の遠つ祖。天糠戸者として。鏡を造らむ。忌部の
遠つかや。太王者として。幣とけらむ。玉作部のら不
つかや。豊玉の者とすく。玉はつららむ。山雷者と
してハ。五百箇真坂樹。八十玉籤とららむ。野槌者以
てハ。五百箇野薦。八十玉籤とららむ。野槌者以
てられも力じし。こな来聚集ぬ。こまに中臣乃こむつ祖。

天兒屋命もかよりもて。神祝ふに不らき。是に日神復
らに磐戸とありて出まら。これより鏡とすく。それ石
窟に入らむ。戸につららむ。小瑕にきり。今にか不
うせむ。こもかより伊勢にいけまはる大神なり。既
かして。罪と素戔鳴尊にむらむ。その袂具とす。是
と以て手端吉棄物足端凶棄物なり。まゝ唾とすく。白和
幣とす。湊とす。青和幣とす。これらもて解除へて。
つひに神逐乃こむとす。逐ふ。

一書に曰く。これのち日神の田三やころにあり。ながけ
て。天安田。天平田。天邑并田。こら。これこかよれた田なり。

霖早にあらせりごと。損傷ほこしはか。か乃素戔鳴
尊の。田もまゝ三ところに行。號代きて天楸田。天川依
田。天口鋭田。これいふ磽地。か。雨ふまはまか
ち流もぬ。早もいもか。ち焦ぬ。故素戔鳴尊。妬て。婿の
みこやれ。田とをうれ。春はまか。ち廢渠槽。か。溝と
う。兄。畔。ち。ち。重播種子。秋ハ。す。み。ち。ち。籴。ち。馬。か
せも。ま。べて。この。悪事。う。つ。く。息。と。れ。か。ち。あ。う。れ。と。日
神。愠。た。る。べ。に。私。に。平。う。め。ち。怒。と。く。あ。ひ。あ。ご。え。た
ま。云。々。日。神。の。天。乃。石。窟。に。か。ま。り。と。い。た。り。て。諸
神。た。ら。中。臣。連。遠。つ。ち。や。興。台。産。靈。兒。天。兒。屋。命。と。遣。して。

祈まをさしむ。に天兒屋命。天香山の真坂木を。祈こ
トにして。上つ枝小ハ鏡作遠祖。天抜戸兒已。瀬戸邊。作
れる。ハ咫鏡と。う。り。か。け。中。枝。小。ハ。玉。作。の。ご。ほ。つ。祖。伊。弉
諾尊の兒。天明玉の。ま。れる。ハ。坂。瓊。之。曲。玉。と。う。り。の。方。下
枝。小。ハ。栗。国。忌。部。乃。遠。つ。ち。を。天。日。驚。が。も。げ。か。米。綿。と。ご
り。て。も。か。ハ。ち。忌。部。首。の。ご。か。つ。か。や。太。玉。命。に。う。り。も
た。し。と。て。廣。く。厚。く。た。へ。辭。と。へ。祈。ま。と。さ。し。む。と。れ。よ
日。神。聞。し。食。て。ち。り。さ。く。此。こ。ろ。人。多。に。ま。ゆ。も。と。い。へ。と
も。つ。よ。い。如。此。と。う。り。つ。よ。と。れ。美。麗。さ。ハ。あ。ら。も。も。か。は
ち。細。り。母。磐。戸。と。あ。ま。り。て。見。を。あ。ま。り。と。こ。ろ。と。れ。子。天。手。力

雄神。磐戸の戸口にさにかへ侍らふ。もかろらひき開く
如バ。日神の光六合のうらに満る。故諸の神うち。大によ
ろこび多ひて。もれより素戔鳴尊に。ちるくのたけ戸の
うらへとたやせさ。手の爪とめてハ。吉爪棄物こく。足の
爪ともくハ。凶爪棄物とす也。もれより天兒屋命として。
それ解除の大諄辭とけうけさく宣らる。世一人つ、
くして己爪と収ひれハ。それとれこや乃もとなり。もを
あつて。諸の神なら。素戔鳴尊とせえて曰く。汝が所業
いとた乃を上げさ。故天上よをせべうらび。もる葦原
乃中つ国に居るべかりす。宜もみゆりに底つ根の國に

適ねとつひて。もかろら共にあつひやをさ。時に霖ふる。
素戔鳴尊青草とゆひて。もて笠蓑とふして。宿と衆神た
ちにこふ。衆神うちの曰く。汝ハこれ躬のしつげさ
こくして。逐謫らふと神なり。いかにぞ。宿とらわし乞
やとつひよもに距く。あくとともに風雨いや吹きつれ
こつくごせ。留まり休むらやと得ず。辛苦ほくらざり也。
とまよ衆このつて。世笠蓑と著て。もてあつ一人の家の
内に入ることを諱む。まら草つらと負うくもて他人乃
家のうちに入るらやといせ。こを犯すことあるもれ
とバ。つかからず解除とわほも。こを太古の遺る法なり。

此後素戔鳴尊の曰く。諸神より身を逐ふ。我今
將小ひくまゝに去なせ。如何ぞワガ姉のこゝろごあひ
ゆ見えまほしくむして。檀々ホシに。こづわらたぢに依
りて。天に上り詣つ。これに天鈿女見く日神にまをも。
日神のこゝろハく。吾が弟乃こや上來まを所以ハ。ま
好意にわらふ。わらむむ我が國と奪もせとちむら。
吾婦女もまこつとせ。何ぞままに避むやしのりて。
まかハち躬に武冠をかへと装ふや云々。こゝに素戔鳴
尊うけひて曰ハく。吾も善らぬことばたもふて。ま

もうで来たるバ。吾今玉と齧ひ生りて見。わあすま
さに女あらし。わらハまかまら。女と葦原の中つ國に
降りて。ま清き心あらバ。かまらずゆさに男と生む。
わらハまかまら。男として天と治りて。ま姉の
みまの生りて。ゆまこの誓にまか。わらむ。
に日神。まら十握のつばと齧り云云。素戔鳴尊すか
ら。輻轡にそれ左の髻小ゆりせる。五百箇のこままら
の瓊の綸と。瓊乃響乃にまか。まも瑤々ヒユヒユに。天傳名井に濯
うけ其瓊の綸と。まか。左の掌にかきて見とまを。
正哉吾勝々速日天忍穗根尊。まら右乃瓊とみ。右の掌

にたきて児とふす。天穗日命。これ出雲臣。武藏の国乃造
土師連ら。か。こむのたやあ也。次に天津彦根命。これハ茨
城國造額田部連等。こむつ祖也。つらに活目津彦根
命。次小燖速日命。つら小熊野大隅命。とべて六くらの
男也。こむに素戔嗚尊。日神に白してまをさく。吾う
に昇来るゆゑハ。諸神たち。我ともて。根國におくに。い
まこにまのたなをす。もへ姉れみらやこ。相俣見え
けらずハ。遂に忍て離れまうれあさる。故まらやに。清
け心ともて。又上るまぬ来つらくのこ。今まかまら觀え
奉ふこやまをにともぬ。後まに諸神なら乃こら

乃まにこをよりひたもに。根國に歸りかき。こも。姉
のこあ也。天國と照臨みたらまをさく也。た乃づうら平安
にまらせ。まら吾うら心ともて。生れ兒たらとハ。又
姉れみらこ小奉らむ。まをにいて。まら還降たまひら。
みれとれ小。素戔嗚尊。天よりして出雲國の。鯨の川上小降
到まを。こきに川上よ啼哭之聲あれとさく。故ら急とらづ
移く覓つて候し。かむ。ひと上乃老公と。老婆こ。なるふひ
や上乃少女と置て。かまかでくなく。素戔嗚尊。こひてのこ
らハく。汝等ハたまをや。何為かくかくや。あさへてまをさ
く。吾ハこれ国つ神也。號ハ脚摩乳。けが妻の名ハ手摩乳。

これ童女ハこれ吾ガ見ナリ。號ハ奇稻田姫。なくゆゑハさ
死小吾見ハたゞ乃少女也。年ごとに八岐の大蛇乃たえ
に吞まふ。いふこれ少童まふのまいるをこす。脱ゆゑに由
ふ。これゆゑ小哀傷とまをま。素戔嗚尊ここやのまして
のさ月ハくも。然らバ。汝まきに女ともて吾にらまや。
うへてまをさく。勅れまにたてまらむ。故素戔嗚尊
立どころに。奇稻田姫を。湯津爪揃にまなして。御髻
にさうふ。これち脚摩乳手摩乳として。八醞酒をかみ。
あてせて假殿八間をゆひ。各一口槽をたまく酒とつれ。以
てまらふ。これ果して大蛇あり。頭尾たのく八岐あり。

眼ハ赤酸醬れ。松栢背にたひ。八丘八谷のあひだに
こいさつり。酒と得るにつらて。頭木のく一つさうふ
私にわや。いもて。酔て私ふ。これ小素戔嗚尊。それち
帯せる十握の劔とめさて。寸にその蛇と斬る。尾につら
て劔の刃もくく缺ぬ。これ尾とさけく見まふ。まはバ。
一の劔あり。こいさつり草薙の劔あり。
一書に云く。本れ名ハ天叢雲劔。けた大蛇居るうへに。
つひに雲氣あり。故もて名けらる。日本武皇子に到て。
名とあつらりて。草薙劔とつら。
素戔嗚尊のさうふ。これ神劔也。これいかにぞ。あへて

私にもちてたきくや。この玉ひて。それら天神のみも
 々に獻^{マツ}上^アぐ。ちうして後に行^{ユキ}つ。婚^{ムス}せむ處ともや。つ
 ひに出雲の清地^{スガ}小^ガつ。す。それら言あがして曰く。
 吾心清^{スガク}々^ク。呼^{コト}て清^{スガ}と^ツつ。そこに宮とたつ。

或云。これ武素戔嗚尊^{ウケスサノミコ}。哥^カして曰^{イハク}。やくとたつ。い
 せをへかき。此^{コノ}に^ニ。をへつれつくは。それやへう
 と。

と。ふら相興^{クミド}に^ニ。違^{ヒト}合^ツして。見大己貴神^{オホニギハヤヒノカミ}とあれま^シん。うをて
 勅^{ツカサ}しての^ノ。月^{ツキ}ハく。吾^{ワガ}見^ミの宮^{ノミヤ}乃^ノ首^{ツカサ}ハ。それら脚摩乳手摩
 乳^{ツチノミ}也^{ナリ}。故^{コト}名^ナと二^ニ。うられ神^{カミ}小^コた^タり^シひて。稲田^{イナダ}宮^{ノミヤ}主^{ノミヤ}神^{ノカミ}と云^フ。

とでありて素戔嗚尊^{スサノミコ}。つひに根國^{ネノクニ}にいてま^しぬ。

一書にいてく。素戔嗚尊^{スサノミコ}。天^{アメ}うを^シて。出雲^{イセ}の^ノ。敷^シ乃^ノ川^{カハ}上^ノに
 う^ウ。す^ス。月^{ツキ}ハく。吾^{ワガ}見^ミの宮^{ノミヤ}乃^ノ首^{ツカサ}ハ。それら脚摩乳手摩
 稲田媛^{イナダノメ}とみとな^りて。とふら奇^キ御^ミ戸^ドに起^{オコ}して。兒^コと
 う^ウ。清^{スガ}之^ノ湯^ユ山^{ヤマ}主^{ノミ}三名^{サミナ}。狭^サ漏^ル彦^{ヒコ}八^ヤ嶋^{シマ}篠^{シノ}と^トな^りぐ。一^{ヒト}云^フく。
 清^{スガ}之^ノ繫^{カケ}名^ナ坂^{サカ}輕^カ彦^{ヒコ}八^ヤ嶋^{シマ}手^テ命^{ノミコト}ま^して。清^{スガ}之^ノ湯^ユ山^{ヤマ}主^{ノミ}三名^{サミナ}。
 狭^サ漏^ル彦^{ヒコ}八^ヤ嶋^{シマ}野^ノと名^ナに^シく。これ神^{カミ}乃^ノ五^イ世^セの^ノ孫^{ムコ}ハ。それら
 大國^{オホクニ}主^{ノミ}神^{ノカミ}なり。

一書小曰く。これら素戔嗚尊^{スサノミコ}。安藝^{ヤク}國^{ノクニ}の^ノ。可^コ愛^エ乃^ノ川^{カハ}上^ノ
 に^ニ。う^ウ。す^ス。月^{ツキ}ハく。吾^{ワガ}見^ミの宮^{ノミヤ}乃^ノ首^{ツカサ}ハ。それら脚摩乳手摩
 脚^{ツチ}摩^{ノミ}手^{ノテ}摩^{ノミ}と^ト。

それ妻の名とハ。稲田宮主箕挾之八箇耳と云。これ神
まさニ姪身夫妻とてにうもへて。まさら素戔鳴尊と
まとして曰さく。我う生る児多ありといへや。生むど
にもか。ら。八岐大蛇行りて來りて吞む。一も存けしや
と云。今吾まさニ産まらん。にさくくハまさ吞と云と
と。さくともちて哀傷と。素戔鳴尊をふる教て曰さく。
汝衆慕ともて酒ハ甕とかむべし。吾ゆさに汝うらに。
蛇ところう。二さらの神教乃まにく酒とまうく子
うむこれにつら祭て。その大蛇。戸にあらず見とのりせ
と云。素戔鳴尊をらちに勅して曰さく。汝ハこれ可畏と

神か。りへて饗せさらせやとのりて。まららもて
ハ甕乃酒と。口と小沃にれら。それ蛇酒とのりて
ひら。素戔鳴尊。劔とぬさて斬ら。尾とうけ時おいた
て。劔の又少くかけぬ。割てこをふるこれバ。まらら
劔尾乃中にり。さくと草薙劔とさづく。去ハ今尾張國
の吾湯市村と。次即ち熱田の祝部が掌にす神。これ
か。その蛇とて。劔とハ。名つきて地之庶正と云。
これ今石上乃宮にまら。この後に稲田宮主箕挾之八箇
耳うら。見真髮觸奇稲田媛と。出雲國鞆の川上に
つら。養うた。然して後に素戔鳴尊。以て妃と

くうひて生せりる児乃。六世此孫。ふれと大己貴命や
まとす。

一書に曰く。素戔嗚尊。奇稻田媛とりさそとて。乞ふ。
脚摩乳。手摩乳。うへへ。曰さく。請ふまげ。乃蛇と殺し
た戸ひて。然して後に幸ばよけせ。乃蛇頭ぶせ。小谷石
松りり。兩股に山り。いせか。いふ。ゆさ。に何以て。う殺
し。うそ。素戔嗚尊をかろら計て。毒酒とつて。もて飲
し。蛇酔て。移ふる。素戔嗚尊すか。ち蛇韓鋤のつはぶ
と。もて。頭と斬。腹とさり。乃尾と斬。ふら。ぬの
双を。く。く。缺たり。故尾と裂て。見とる。も。は。は。ふ。ふ。は。は。は。

ち別に。り。を。き。劔。り。り。名づ。あ。て。草薙。の。つ。は。は。こ。か。を。
此劔ハ。昔素戔嗚尊れ。も。と。に。あり。ハ。戸尾張国に。り。り。
その素戔嗚尊乃とろちと斬た戸へる劔ハ。今吉備神部
の所とあり。それ大蛇と斬り。い。い。処ハ。も。な。ち。出雲乃
歟。此川上の山ことあり。

一書に云く。素戔嗚尊れ。所行。あり。さ。か。し。故諸神。た。ら。に
ほ。も。れ。に。千座の置戸と以て。し。つ。ひ。小。逐。ふ。この。とき。に
素戔嗚尊。と。乃。子。五十猛神と卒。わ。て。新羅國に。ら。ぶ。と。り
して。曾尸茂里乃。と。こ。ゆ。に。ま。し。り。は。も。か。ら。り。言。あ。げ。
て。曰。く。この地ハ。吾居ま。く。欲。せ。り。つ。ひ。は。埴土と。も。て。

舟と化らり。のりく東に口たに。出雲国簸の川上にい
る。鳥上の峯にわれられ。そふに人と吞む大蛇あり。
素戔鳴尊もかこち天蠶斫之劔として。かのとろちと
斬らふ。こに蛇の尾と斫て。劔ハ切らぬ。をふらうら
て見とあはまわい。尾乃うらに一つれ神劔あり。素戔鳴
尊曰く。うらをきて吾う私小用ふべうらむとのゆ
ひて。もかこち五世の孫天葺根神とつらうて。天上
たぐまにをらぐ。これ今いさゆる草薙劔あり。もくは五
十猛神。うら降りますうらに。多に木種ともくらる。去
りて。て韓国にうら行くさびて。もて持入るてつ

ひに筑紫うらうら。大八洲国乃うらに播殖して。あを
山からぞやうらうら。こに所以に。五十猛神とるづ
もて有功の神やうら。もかこち紀伊国とゆるまは大神
うらあり。

一書にへこく。素戔鳴尊のうら。韓郷之島はうら金
銀うら。たうへバ吾見のうら。浮寶あり。もはよ
うら。このうら。もかこち鬚髯とぬき散つ。即ち杉の
木やなる。も胸の毛と抜あうつ。これ捨と成る。尻の毛
ハこれ披とぬ。眉れ毛ハこれ撥樟とぬ。もてにして
そ乃用なるを定む。言あげしてのうら。秋の木及

び椽樟。こ乃ふたつれ樹ハもて。浮實ととべ。檜ハもて
瑞の宮とにくは材ととべ。披ハもく。顯見蒼生の奥津
棄戸にふさそとふへよとべ。そ乃ららふださ八十木
種とこふく播こし生う。こさに素戔鳴尊乃子とあけ
きて。五十猛命妹ハ大屋津姫命。つさに抓津姫命。もべて
こ乃三々られ神も。もささく木種とまねほぞこは。も
なろり紀伊国に渡しまつは。あうして後ハ素戔鳴尊熊
成峯にまゝく。ほひ子根國おつりまゝき。
一書にいしく。大国主神。まゝれ名ハ大物主神。まゝハ國
作大己貴命とまゝと。又葦原醜男とまゝは。まゝハ千戈

神こまとも。亦ハ大國玉神とまゝとす。まゝ顯國玉神。こ曰
も其子をだて。一百八十一神まゝす。ハ乃大己貴命。少彦名
命。こ力とらもせ心とひつ。おして。天下と經營るまゝ
顯し蒼生。おらび。畜産乃た光にまふら。その病と療
むる方とまゝむ。まゝ鳥獸昆虫乃災とまゝとす。た光に
まふら。そ乃禁厭之法とまゝむ。こゝとして。百姓今に
いたふまゝ。こやぐく。恩頼とつ。ふれ。ハ大己
貴命。少彦名。命に。つて。の。ゆ。こ。吾等。造る國。豈
よく成せ。と。つ。や。對て。曰。ハ。或。ハ。成。ま。所。も
ら。ハ。成。こ。は。と。こ。ら。の。談。ふ。也。

幽深さしひ有らそ。そのち少彦名命。行て熊野乃御碕
 に至りてつひに常世の郷に適きぬ。もさ曰く。淡島に
 ついで。粟莖小のやとくくバ。ちかろら彈かき渡り
 して。常世乃郷についでゆき。こころまのら。国の中に
 成らるれ所とい。大己貴神ひとりよ。巡り造る。つひ小
 出雲國にいたりて。言ひけりて曰はく。とて葦原中国ハ
 もやうり荒芒なり。磐石草木にいたれまぐ。くまぐく小
 能く強暴あつむ。吾もてよ。摧き伏て和順ぞとつ
 こやふ。つひに因ての。るはく。今これ国とをさむる
 ハ。たゞ吾一身のこなり。これ吾こもに。天下と理べさ

ものき。あやや。これ小神光海と照し。たつら
 に浮来るものなり。いそく如吾らもハ。汝はく。おど能
 こ乃國を平ま。や。吾られよりきて乃ゆえ。汝その大
 造の績とたつばくやとえたり。このよに小大己貴神こ
 ひて曰はく。然らハもかろら汝ハこそ誰ぞ。こころへて曰
 しく。吾ハこれ汝が幸魂奇魂也。大己貴神のこハく。
 ちかろらもかハち汝ハ。これ吾之幸魂奇魂。今いづお小
 住むとたよや。對て曰く。これ日本國之三諸山にも
 ちかろら。故もなろら宮とかいこにつらとてゆき
 まゆき。これ大三輪之神なり。こ乃神れ子もかハ

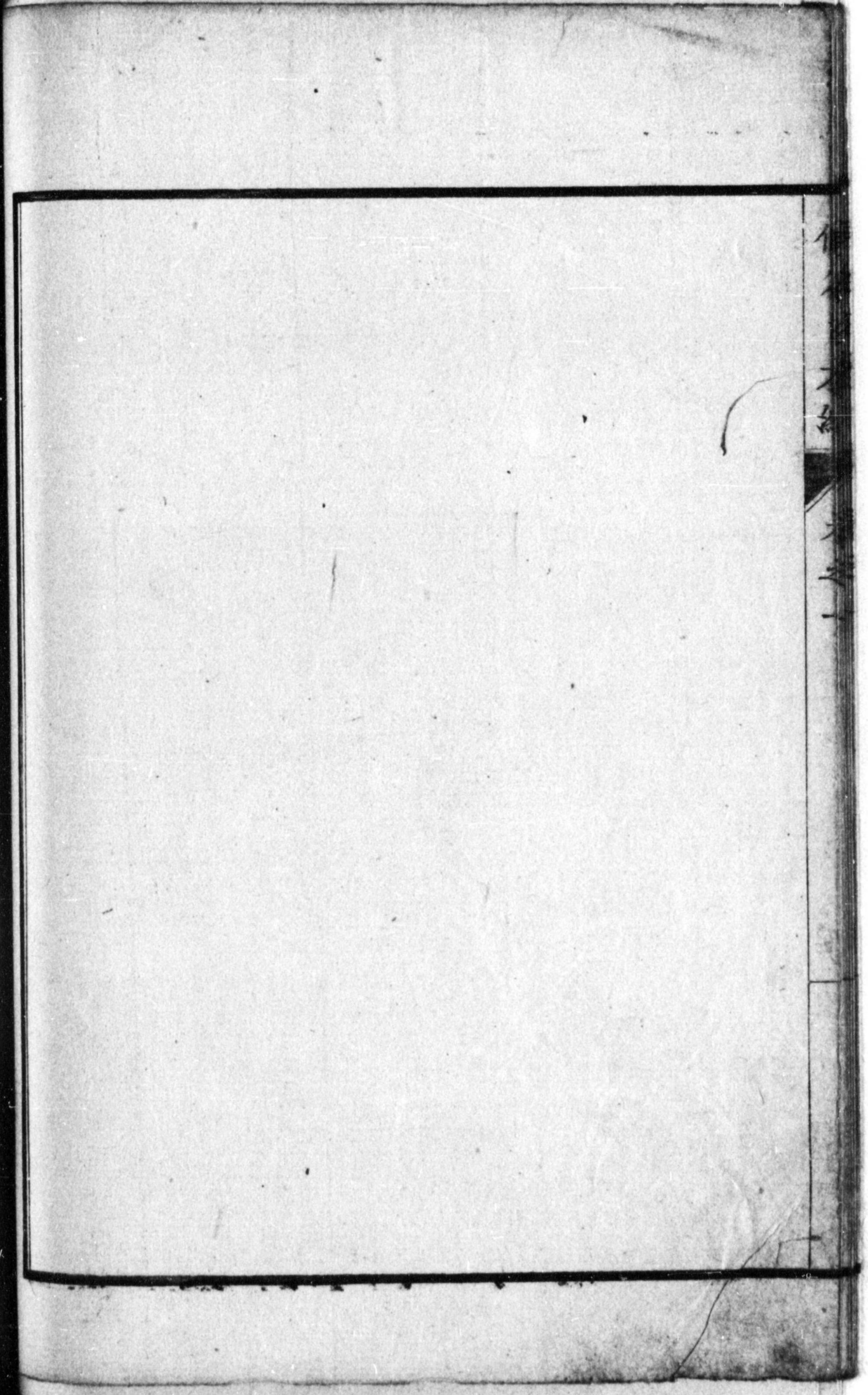
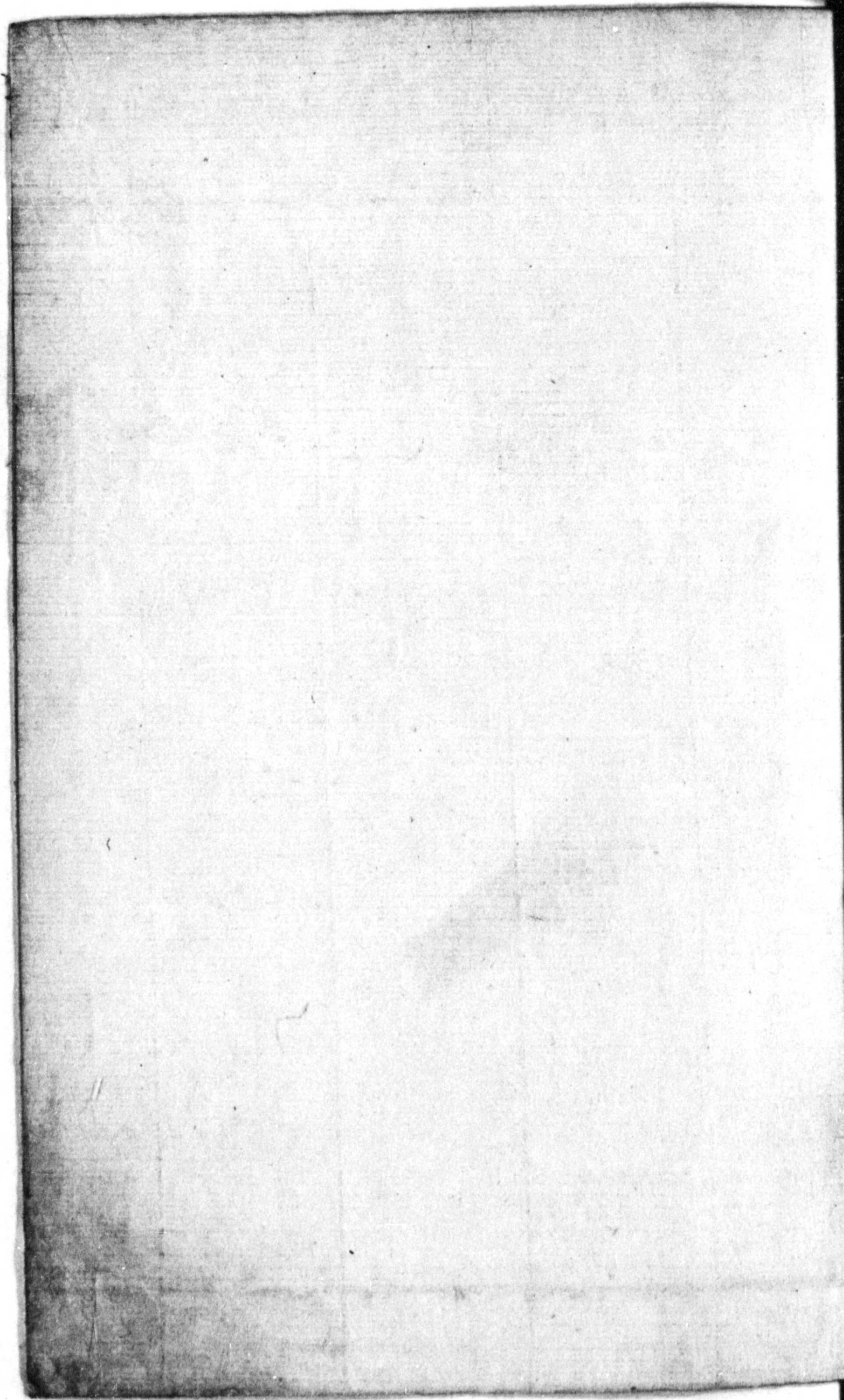
ち其^カ茂^モ君^ノ等^{キミ}大三^ミ輪^ワ君^ノ等^{キミ}まゝ媛^{ヒメ}踏^タ鞞^カ五十^イ鈴^ス媛^{ヒメ}余^ノなり。又
ひこく。事^{コト}代^{シロ}主^{ヌシ}神^{カミ}八^ヤ尋^{ヒロ}乃^ノ熊^{クマ}罽^{マニ}にあり。三^ミ島^{シマ}溝^{ミヅ}楸^{クシ}姫^{ヒメ}小^コかよ
ひたまふ。或^ニ曰^ク玉^{タマ}櫛^シ姫^{ヒメ}志^シうして兒^コ媛^{ヒメ}踏^タ鞞^カ五十^イ鈴^ス姫^{ヒメ}余^ノ
とうむ。こもと神^{カミ}日本^{ヤマト}磐^{イハ}余^レ彦^{ヒコ}火^ホ火^ヒ出^デ見^ミ天^{アメ}皇^ノの皇^{キミ}后^{サキ}とを。
大^{オホ}己^ニ貴^キ神^ノの国^{クニ}むろこに。出^イ雲^{クモ}国^ノ五十^イ狹^サ々^ハ之^ノ小^コ江^エに行^{ユキ}
ゆして。飲^ミ食^シせせとを。これこに小^コ海^{ウミ}上^ノよたちふちよ人^{ヒト}
乃^ノこゑあり。まかろら驚^{オドロ}きく求^{モト}むるに。ふつよ見^ミゆれ所^{トコロ}
なく。志^シろくありて一^{ヒト}箇^リの小^コ男^ヲあり。白^カ菟^ミ皮^カとめて舟^{フネ}
につく。鷓^{サシ}鴒^キ羽^ハとめて衣^{ユモ}とふ。潮^{ウシ}乃^ノまにくもて浮^{ウカ}ひ
つゝか。大^{オホ}己^ニ貴^キ神^ノまかろら取^トりて。掌^{タナ}中^{ウラ}にあさて翫^{モトメ}び玉^{タマ}

ひろく。則^{スレバ}跳^ハりてその頬^{ツラ}とくふ。まれろらその物^{モノ}色^{イロ}
とのやうみて。使^{ツクシ}と遣^{マダ}して天神^{アメノカミ}にまとを。これに高^{タカ}皇^ノ産^{ムス}
靈^{ミコト}尊^ノ聞^クて。曰^クこく。吾^{ワガ}所^ノ生^ム見^ミもべて一^{ヒト}千^チ五^イ百^{ヒャク}座^ザの
に。その中^{ナカ}に一^{ヒト}見^ミ甚^シさうかくして。教^{ツクシ}養^{ゴト}にまらうます。指^{ササ}
間^{マタ}より漏^キれらう。かろらすを。うべ愛^メいて
養^{ヒキ}せ。こをもれろら少^シ彦^{ヒコ}名^ナ命^ノられ。に。

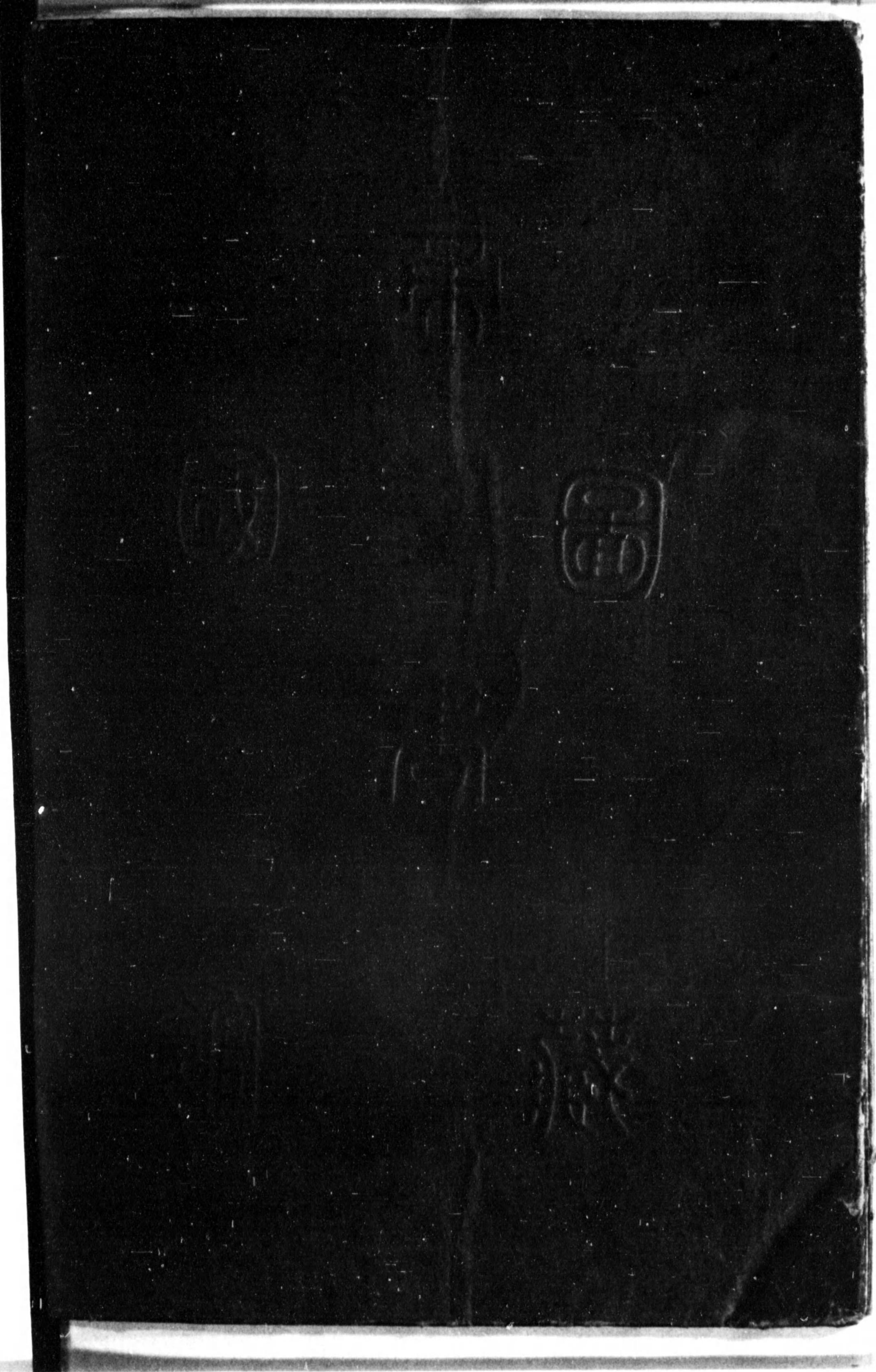
假名日本紀卷第一終

假名日本紀

卷第一



29
2
9



001489-001-6

129-9

仮名日本紀

清原 国賢 / 著

M8

ACB-3957



假名日本紀

卷一

129
3
9

東 京 圖 書 館				
三	九	五	國	和 書 門
冊	號	架	史 函 類	

五